

あまりの被曝量「話が違う」

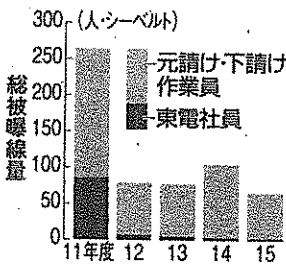
東京電力福島第一原発ではいま、毎日約6千人の作業員が被曝のリスクを負いながら働いている。その大半は、東電の「協力企業」。同社から直接発注を受けた「元請け」を頂点に、下請け、孫請けに回る業者で働く労働者たちだ。その実態を探った。

発業者と11.3.11

上

午前5時過ぎ。今日6日まで東電の福島復興本社があった「Jヴィレッジ」(福島県楢葉町、広野町)では、バスが次々と発ち、20分離れた第一原発へ労働者を運ぶ。福島県いわき市の男性(36)もその一人。いまは東電の4次下請けで働く。起床は3時半。4時に会社の迎えの車に乗り、Jヴィレッジへ向かう。靴下、手袋は二重にしてカイロ

被曝労働の多くは下請け作業員が担う。人シールドは働いた人数に平均被曝線量をかけたもの。2015年度は1月までの合計。東京電力の公表資料から



口も詰める。防護服の下に服を5枚着込んで、潮風がなお寒い。

仕事は、汚染水を流す配管を敷く作業だ。敷地は鉄板が敷かれ、事故直後よりはきれいに見える。だが、原子炉建屋を見れば外壁のコンクリートが吹き飛び、中の鉄筋がむき出しになったまま。「建屋に近づくと、線量も食う」

身につける個人用線量計は、0.16ミリシーベルト被曝すること、警報が鳴る。1日3回鳴れば、その日の仕事は途中で終わる決まりだ。

夏は倒れる人も

夏はなお厳しい。全面マスクに、全身を覆う防護服。

過酷な環境 6千人大半下請け

暑さ対策に水の中に入れても、30分すれば溶けてしまう。ある夏、作業を終えた中年男性が休憩室の地べたに倒れていた。ドクタヘリで運ばれたが、熱中症で亡くなった、と聞いた。

家族残して再び

5年前の「あの日」は、第一原発の1号機建屋の中にいた。働き始めて1年が経ったころだった。

「ガンちゃん」と、何かが停止した音がした。外へ走ると、地面はコンクリートが割れ、ガラスが散乱。「企業棟」と呼ばれていた敷地内の建物へ避難した。

安否確認をして、夕方に解散。津波は見えなかった。午後8時に帰宅すると、ストレスと緊張からか、熱とじんましんが出た。自分がいた建屋は翌日、水蒸気爆発した。

数日後、家族と名古屋の親類宅へ避難した。だが5月ごろ、勤め先の社長が電話で告げた。「IF(福島第一原発)へ行ってくれ」。

当時、娘は1歳になったばかり。生活するにはIFしかない。そう言い聞かせ、一人福島に戻った。日給は1万1千円だった。

「4次に雇われ」
長野県の男性(44)は20

12年6月、第一原発で働いた。それまでは地元車の販売会社社員。「汚染が広がるのを食い止める手伝いをしたい」と思い、インターネットで「IF」の仕事を探して応募した。

業者から連絡があった。「作業員の放射線量を検査する仕事がある。放射線を浴びる量は少なくて済む」。いわき市へ向かい、4次下請けという業者と1年間の雇用契約を結んだ。

数日後、1次下請けの会社が開いた説明会へ行った。その社員がこう告げた。「ご存じの通り、線量が少し高いです」「汚染水が集まる攪拌機の交換作業です。高線量なので、5分10分しかいられません」。

内部被曝の危険が高く、空気ポンペを背負い、それで呼吸するという。

説明によると、攪拌機そのものは触らず、別の熟練者が作業する。自分たちの仕事は、その人たちが少しでも被曝を減らして長くいられるよう、地面にゴマツトを敷く「時間稼ぎ」だった。

説明会后、4次下請けの社長に「こんなに被曝して1年間も働けるわけがない。聞いた話と違う」と抗議した。社長は「1日で1ミリシーベルト浴びても、1週間でも半分になる。ここ

仕事をやめたら信用に関わるから」とごまかした。結局、高線量の作業は直前で取りやめになった。

「子にはさせぬ」

作業は、構内のガラス撤去に変更された。その初日。休憩の合間、1次下請けの社員に質問した。中年の男性だった。「1日に何時間も浴びる仕事に、あなたは自分の子どもを任せますか」と聞くと、「法律的には問題ないけど、オレだったら行かせない」。

その日の帰り、4次下請けの社長に「3次下請けの事務所へ行ってください」と電話で告げられた。行く、見たこともない業者が現れ、「現場であんなこと言われては困る。今日限りで帰ってください」と言った。押し問答が続いたが、3日後、長野県へ帰ることになった。

説明によると、攪拌機そのものは触らず、別の熟練者が作業する。自分たちの仕事は、その人たちが少しでも被曝を減らして長くいられるよう、地面にゴマツトを敷く「時間稼ぎ」だった。

説明会后、4次下請けの社長に「こんなに被曝して1年間も働けるわけがない。聞いた話と違う」と抗議した。社長は「1日で1ミリシーベルト浴びても、1週間でも半分になる。ここ

震災から5年。労働者たちが「IF」と呼ぶ東京電力福島第一原発では、誰が、どんな環境で働いているのか。3回にわたって伝えます。

「働く」面へのご意見、「職場のホンネ」欄へのご投稿は連絡先を明記して〒104-8011朝日新聞経済部労働チームまで。ファクス03・5541・8428、メールt-odo@asahi.com、ツイッターは@asahi_hataraku

3/11 朝日